

米長期金利の低下を背景に  
堅調な推移が続くアジア社債

楽読(ラクヨミ)

nikko am  
fund academy

米長期金利の低下を背景に、昨年末以降、米ドル建て高利回り債券が堅調に推移しています。なかでもアジア社債は比較的安定しており、足元の新興国の動揺にもほとんど影響を受けずに上昇基調を保っています。

一般に、新興国企業は先進国に比べて信用力が低いと考えられています。しかし、アジア社債の発行体は、財務状況が相対的に良好であるなど、健全なファンダメンタルズを有する企業が多く、他の地域と比較して高い格付が付与される傾向があります。このことは、新興国債券に対する市場心理が悪化した場面でも、底堅い動きが期待できる理由の一つであると言えます。

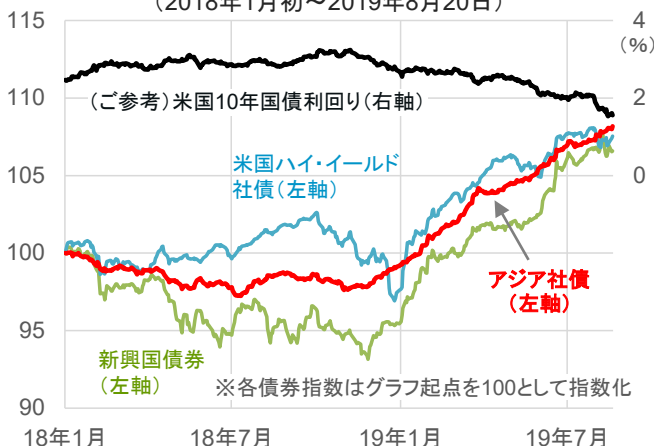
また、アジアには様々な成長ステージにある国がバランスよく存在することも特徴です。1人当たりGNI(国民総所得)でみた場合、安定的な成長が見込まれる高所得国のほか、相対的に高い成長が期待される中所得国などに分散されており、より多くの投資機会の獲得と、リスクの分散が期待できると考えられます。

そのほか、アジア社債には、堅調な経済成長を背景に比較的デフォルトが少ないことや、アジア域内の投資家による保有が多く、世界的な金融市場の混乱に伴う資金流出懸念が少ないことなど、多くの利点がありますが、なかでも、大きな投資妙味として、魅力的な利回り水準が挙げられます。社債の格付は個別企業の財務状況だけでなく、国の格付にも影響を受けることから、一般に新興国企業の格付は先進国に比べて保守的に付与される傾向があります。そのため、相対的に健全なアジア社債の発行体にも、アジアプレミアムと呼ばれる上乗せ金利が発生しており、先進国社債と比較して、信用力対比の利回りが高い傾向にあります。こうしたことから、より高い利回りを求める投資家の資金が、アジア社債に流入していると考えられます。

7月にFRB(米連邦準備制度理事会)が利下げに踏み切ったことを受け、アジア諸国でも利下げの動きが続いていますが、それでもアジアの金利は先進国を大きく上回る水準です。また、昨年まで米利上げへの追従を余儀なくされていた国が金融緩和に舵を切れば、経済への好影響が期待され、国の信用力向上にもつながると見込まれます。今後も低金利環境が続くとみられる中、アジア社債への注目はさらに高まるものと考えられます。

## 各資産のパフォーマンス推移(米ドルベース)

(2018年1月初～2019年8月20日)



アジア社債: JPモルガン・アジア・クレジット・インデックス(社債)、新興国債券: JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・グローバル、米国ハイ・イールド社債: ICE BofA マルリンチ・USハイ・イールド・インデックス

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

## アジア主要国・地域の1人当たりGNI (2018年)



(単位: 万米ドル)

※各所得国の定義は世界銀行による

出所: 世界銀行

## 地域別社債の平均格付と利回り (2019年7月末時点)



新興国社債: JPモルガン・コーポレート・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・ブロード(地域別)、米国投資適格社債: ICE BofA マルリンチ BBB USコーポレート・インデックス、米国ハイ・イールド社債: ICE BofA マルリンチ BB USハイ・イールド・インデックス

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。